

1. 内外政

- ・31日、タピオラEU大使は、他の東方パートナーシップ加盟国と同様、モルドバにおいても連合協定に関する偽情報が流布されている旨発言。
- ・2-5日、外務・欧州統合省代表団は、韓国を訪問し、査証免除、二国間関係等を議論。
- ・3日、キシナウにて、東方パートナーシップの枠組みにおけるV4各国代表及びブローザ外務・欧州統合次官による政治諮問会議が開催。
- ・4日、レアンカ首相は、ポロシェンコ・ウクライナ次期大統領とヤツェニューク・ウクライナ首相がモルドバ語(ルーマニア語)を理解できることを嬉しく思う、モルドバとウクライナの首脳陣が同じ理解と目的を有していることは重要である旨発言。
- ・5-6日、ウィーンにて、「5+2」協議が開催。カルポフ再統合担当副首相、ボゴエヴィチ沿ドニエストル問題解決担当大使等が参加。沿ドニエストル地域とその他モルドバ国内の移動自由の保障等につき議論。次回開催は、7月17、18両日の予定。

- ・6日、ヴォローニン共産党党首は、ロシアによるクリミアの「編入」は、歴史に鑑みれば、同半島の「ロシアへの回帰」と呼ぶのがふさわしい旨発言。
- ・6日、ティモフティ大統領は、レアンカ首相の提案に基づき、シャル環境省を解任し、ツァピシユ環境次官を後任に命じる大統領令を発出。

2. 経済

- ・4日、レアンカ首相は、2012年に採択された、国家発展戦略「モルドバ2020」に関して、長期間の議論及び農業食料産業省の要請を受けて、農業及び地域発展を含む新たな目的が加わった同戦略の採択に関する修正法案をモルドバ政府が承認した、モルドバは現在、この戦略を実施していく必要があり、この新たな目的が農業生産物の競争力を高めるだろう旨発言。

※本週報ではモルドバの首都名「キシニョフ」(ロシア語読み)を暫定的に「キシナウ」(モルドバ語読み)と表記しています。
(了)